



第73回日本医学検査学会 in 金沢

ランチオンセミナー5

卵巣がんにおける
新たな腫瘍マーカー
TFPI2の有用性について
～実臨床への応用～

座長

松下 弘道先生

慶應義塾大学医学部 臨床検査医学

演者

川口 龍二先生

奈良県立医科大学 産婦人科学講座

2024年

5月11日(土) 12:10-13:10

会場

第8会場

(ホテル金沢 2FダイヤモンドB)

第73回日本医学検査学会
企業展示会場のご案内

【日時】

2024年 5月11日(土) 9:00-17:00
5月12日(日) 8:30-15:00

【会場】

石川県立音楽堂 B1F
東ソブース番号No. OB-06

・当セミナーの参加には事前参加登録、あるいは整理券が必要となります。

・詳細は学会ホームページをご確認ください。

<https://convention.jtbcom.co.jp/73jamt/index.html>

共催

第73回 日本医学検査学会



東ソー株式会社

TOSOH

演題名： **卵巣がんにおける新たな腫瘍マーカー
TFPI2の有用性について
～実臨床への応用～**

座長： 松下 弘道 先生 (慶應義塾大学医学部 臨床検査医学)

演者： 川口 龍二 先生 (奈良県立医科大学 産婦人科学講座)

〈内容紹介〉

本邦において、卵巣がんは毎年約13,000人が罹患している。自覚症状が乏しく発見時には進行している場合も多く、約4,900人が毎年亡くなっている。卵巣がんには主に4つの組織型(漿液性癌、明細胞癌、類内膜癌、粘液性癌)が存在し、本邦では明細胞癌の発生頻度は約25%と欧米に比べて高頻度である。卵巣明細胞癌は子宮内膜症が発症の母地となることがあり、化学療法に抵抗性で、CA125をはじめとする他の腫瘍マーカーでは上昇しにくいなどの特徴を有する。

今回紹介する組織因子経路インヒビター2(TFPI2)は、とりわけ明細胞癌に良く反応すること、また、CA125とは相関を認めず、子宮内膜症を含む良性疾患ではほとんど上昇しないなどの特徴を有する腫瘍マーカーである。本セミナーでは、TFPI2の特徴と卵巣がん患者のフォローアップを含めた有用性について使用経験を含めて紹介する。